ニュース「いい話」の
提供と購読・友の会
入会のお申し込みは
（E-mail）
info@iihanashi.com
FAX 06-6766-1875
（フリーダイヤルは
中止致しました）

いい話の新聞社®

発行所© いい話の新聞社
大阪本社 〒542-0061 大阪市中央区安堂寺町2-2-11 TEL06・6766・1874
東京支社 〒162-0808 東京都新宿区天神町6 TEL03・3235・6741
福岡支社 〒810-0001 福岡市中央区天神4-5-10 TEL092・731・2521
発行日 毎月1日 定価 年間購読料 5,000円（郵送料含）
郵便振替 00930－5－311816
編集・発行人 細見識玄輔
http://www.iihanashi.com

川口喜三郎さん 喜楽の会主宰者

念（おも）いによる他自実現の癒し

サインが運ぶ奇跡の現象

全国各地でセミナー

「自らの可能性信じよう」

「あんた、若林豪に似ているね」「そうですか。じゃあ、サインしましょうか」冗談半分で差し出されるノートの切れ端や名刺の裏にサインしたのが始まりだった。

何人かの人にサインを渡したところ、意外な報告を受け取るようになった。「病気が治った」「事業が好転した」「足の悪い人が歩けるようになった」

だが、本人、川口喜三郎さん（五〇）は「単なる偶然だろう」ぐらいにしか思っていなかった。

川口さんは高校入試の時に心臓病に侵されていることを知った。手術を勧められたが、成功する確率を問い正すと「成功するか失敗に終わるかどちらともいえない」との返答だった。「そのまま手術しないでいても、二十年ぐらいは生きられるかもしれない」と頼りない答だった。川口さんはしない方にかけた。

その後、建設関係の経営をしてからも何回か意識不明になり、救急車で運ばれることがあった。そのせいか「どうせ短い命」とばかりに大量の酒を飲むようになった。

そんな川口さんのサインを受け取った人が先に述べたようなことが頻繁に起こり出してから、政治家や経営者から声がかかるようになった。呼ばれるままにどこへでも出かけたが、ひとつだけ条件をつけた。それは「朝までお酒の付き合いをすること」。これほどまでの酒豪が二年前から、ピタリと飲むのを止めた。理由は「どうでもよくなったから」。

ガンが自ら治る人がある。しこりが自ら消える人がいる。痛みもその場で消える。神経さえ切れていなければ、歩けなかった人が立ち上がる。そんなうわさが全国に広がり、現在では「喜楽の会」を設立、各地でセミナーを開催している。

この人の宇宙

セミナーでは、経済、肉体、精神や家庭、社会面、すべてが向上するといった奇跡が起こっている。

例えば受験に合格する、選挙に当選する、交通事故を起こしそうになった人がテレポーテーション（肉体の瞬間移動）で未然に防ぐことができたなどだ。

また、初めてセミナーに参加してエネルギーの転写を受けた人が過去の超能力者といわれる人をはるかに超える能力を発揮する。

セミナー会場では参加者に「川口喜三郎」と書かれたカードを渡し、エネルギーの強化のやり方と念（おも）い方を伝授する。

経済面の繁栄を願う人はまず願望を欲望に変える。そして一生懸命やれば実現できそうな額を月商で表し、その額を口ずさむ。これは自分自身との約束だ。さらに「取引先の事業が繁栄し、事業の関係者と関係者の家族が健康で幸せになりますように」と小さな声でつぶやくのだ。

通常、自分の事業を繁栄させたい人は「自分の事業が繁栄しますように」と唱えがちだ。だが、これでは念いは通じない。念いは伝わると戻ってくるもの。

このことを川口さんは他自実現の癒しの例えとしてたらいの水の話で説明する。たらいの水は向こうに押すと必ず返ってくる。これは道理なのだが、自分の力で引き寄せようとするところに人の愚かさがある。

この方法で思わぬ大口の契約が取れた人や不思議と融資の話がまとまった人、新たな事業が舞い込んだ人もいる。

うつ伏せになってもらい本人が両足首とかかとを合わせ、ずれを確認させるとたいていの人は一方の足が他方より三～五ｾﾝﾁずれている。これは骨盤がずれているからだ。

また立ち上がらせて正面を向かせ「はい、いいですよ」と言ってうつ伏せにさせ、自ら確認させると両足のずれがピタリとそろっている。

健康面以外では登校拒否の子が学校に行くようになった。非行少年が更生したなど、その効果は枚挙にいとまがない。

「人が平常心で言葉にできることは達成できます。『これぐらいのことで事業が繁栄する、病が消えるなんて』と思うと、残念ながら願いは叶いません」

川口さんは決して川口さんを信じてほしいとは言わない。奇跡を起こせる自分自身の可能性を信じてほしいのだろう。（榊瓢六）

この人の話

人々の喜びの声を聞くことが何よりの支え

私が全国を回ってセミナーを開催するきっかけを作ってくれた人がいます。その人はある宗教団体の女性教祖でした。

朝まで飲み明かした後、彼女はふっとトランス状態に入りました。チャネリング能力の高い人だったんです。私の前で弘法大師が彼女に舞い降りて、そして詩（うた）を詠んだと言うのです。

その詩は「いつくしみ、育てし君の御宝（みたから）を、世の人草に与えしもがむ」でした。

私はそれまで気に入った人としか会うことはしませんでした。世の人草とはもろもろの人という意味です。つまり分け隔てなくすべての人に与えなさいということだったんです。

セミナーを全国で開催するようになっていろんな人たちと出会うようになりました。高度に発達した現代医学でも救えない病に苦しむ人の何と多いことでしょう。事業がうまくいかず、自らの命を断つ人も珍しくありません。子どもの非行で悩んでいる親たちも大勢います。これらの人たちは解決の方法を求めてさまよい歩きます。

私がエネルギーを転写するとすべての人が私と同じような能力が発揮できるようになります。それにはセミナーでお渡しするカードを用いることが必要です。

同じエネルギーを持つ人がどんどん増えると巨大なエネルギーになるでしょう。するといろんな災害を未然に防ぐ力になるかもしれません。この日本をよくする方向にも向かうでしょう。

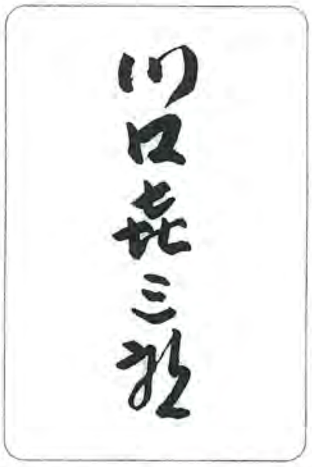
営利目的ならばセミナー開催以外にも、もっと簡単な方法があります。でもあえてそれを選ばず、全国を回る方法をとっているのは、私に出会うことによって健康になった人や経済的に繁栄した人からの喜びの声が聞けることが何よりの支えなのです。

どうして病が自ら治るのか、なぜ経済が豊かになるのか、その理由は私にも分かりません。ただそういった結果が出ているのは事実です。

自己癒しや家族での癒し合いの方法は自然に体が動き、知ることができました。念いを唱える言葉も自然にわき上がったものです。他の人でなく私にこのようなことができるということは、私に使命があるのだと信じ、これからも活動を続けていきたいと思っています。

◇喜楽の会連絡先
事務局＝〒849―2305 佐賀県杵島郡山内町二四七六五―三八。
電話〇九五四―四五―三五七〇（代）、FAX〇九五四―四五―四六二〇。

川口喜三郎さんが全国各地で開催しているセミナー会場で手渡されるカード



川口喜三郎

点滴

▼時代が変わってしまったことを感じる。街中を歩いていて周囲を見回すと、歩いている人間の外観は変わらないのだが、その一人一人をつなぐ仕組みのようなものが変わってしまっていることを肌で感じる▼そして自分自身が世間でいう定年の年齢を過ぎているのに、こうして既に変わってしまっている人たちの中に混じって動いているのが何となく不思議な気がしてくる。人間の都合で決めた定年年齢など気にする必要もないのだが、時々まだいいのだろうかと思ってしまう▼ところが八十五歳の人生の先輩が、四十歳代の体力に戻るといって通っている所がある。前号で紹介した伊勢市にある㈱アイセ。人間の身体に帯電している静電気を抜くことでそれが可能になるらしい。その人はもちろん八十五歳の人間としては健康体で、普通の八十五歳の人が及ばないような行動力を持っている▼人間は自らが思った通りのことができるというのも、昨今は聞き慣れたことであるが、実際にそういう生活行動をとっている人を見かける機会は少ない。たいていの人が、自分のことになるとなかなか思うようにいかないのが実情だ▼しかし、川口喜三郎先生に出会うと本当に自分が思う通りの人間になれることが分かる。静電気を抜くことを仕事にしている㈱アイセの社長、今野正明さんはこの先生に出会って感銘を受け、この人の話を聞くだけで静電気が抜けるという。